

【資料】ある学園での光熱費の変動と来年度の見通しの例  
【金額は、千の位切り捨て】

2023年2月7日  
神奈川私教連

・この学園は、数年前にA電力に切り替えていた。しかし、来年度にA電力が「電力を供給し続けることができるかどうかわからない」と通知。B電力に切り替えた場合と、東電に切り替えた場合を想定して事務局が試算をおこなった。

① 2021年度10月の光熱費と、2022年度9月の光熱費の比較

	光熱費（A電力）
2021年度10月	166万円
2022年度9月	280万円
この1年での月額値上げ幅	114万円

※注：光熱費は、1年前に比べて月額114万円値上がりしている。

② 2022年度光熱費予算

2022年度光熱費予算	2300万円
-------------	--------

※注：光熱費月額190万円程度を見込み、それを12ヶ月分計上。

③ この1年の電力使用実績をベースに、今後1年の市場値上がりを見込んだ試算

	B電力	東京電力
2022.10~2023.9までの光熱費合計額	5804万円	5668万円

※注：A電力は今後の供給が不透明のため試算できません。A電力で電力確保ができた場合は、東電より安くなる見込み。

④ 光熱費高騰を受け、2022年度と2023年度で予算はどう変わるか

	B電力の場合	東京電力の場合
2023年度光熱費予算	5804万円	5668万円
2022年度光熱費からの値上げ幅	3504万円の増額	3368万円の増額

※注：A電力、東京電力いずれも、年間3500万円程度の支出増が見込まれる。

つまり光熱費予算は電気代だけで今までの倍以上になることが予想されており、既に大幅な増額になっている。ガス代なども含めると、さらに巨額の新たな支出が私学の財務を圧迫している。